資料５

審　議　事　項

	件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 （※シンポジウム等、後援関係については概要を記載）	説明者	根拠規定等
Ⅰ　審議事項						
１．提言等関係						
提案1	提言「学術の振興に寄与する研究評価を目指して－定量的評価手法及び資源配分へのその利用の問い直しを中心に－」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	科学者委員会委員長研究評価分科会	C(1-101)	科学者委員会研究評価分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 **※科学者委員会査読**	科学者委員会研究評価分科会三成美保委員長、武田洋幸幹事、林隆之委員	内規3条1項
提案2	提言「我が国における教育データの利活用に関する提言―エビデンスに基づく教育に向けて」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	心理学・教育学委員会委員長、情報学委員会委員長	C(102-142)	心理学・教育学委員会・情報学委員会合同教育データ利活用分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 **※第一部査読、第三部査読**	心理学・教育学委員会・情報学委員会合同教育データ利活用分科会緒方広明幹事、柴山悦哉委員	内規3条1項
２．学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和２年度第３四半期】追加分・【令和２年度第４四半期】						
提案3	学術フォーラム「「人口縮小社会」という未来-持続可能な幸福社会をつくる-」の開催について	人口縮小社会における問題解決のための検討委員会委員長	B(7-8)	主催：日本学術会議 日時：令和2年11月25日(水)(第一希望)、11月18日(水)(第二希望)、13:30-17:00 場所：日本学術会議大会議室(オンライン開催)	-	内規別表第1
提案4	学術フォーラム「「東日本大震災からの十年とこれから」～58学会、防災学術連携体の活動～」の開催について	防災減災学術連携委員会委員長、土木工学・建築学委員会 委員長	B(9-10)	主催：日本学術会議、防災学術連携体(58学会) 日時：令和3年1月14日(木)10:00-17:00 場所：東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂	-	内規別表第1

３．その他のシンポジウム等						
提案5	公開シンポジウム「Withコロナの時代に考える人間のちがいと差別　～人類学からの提言～」の開催について	地域研究委員会	B(11-12)	主催：日本学術会議地域研究委員会、文化人類学分科会、多文化共生分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会 日　時：令和2年10月11日（日）14：00～16：00 場　所：オンライン開催（新丸ビル10階京都アカデミアフォーラムから発信） ※Youtubeでの事後公開については検討中 ※8月の幹事会において承認済みのシンポジウムについて、発信場所、分科会等の開催を「なし」に変更するもの。 **※第一部承認**	-	内規別表第1
提案6	日本学術会議中部地区会議学術講演会「コロナ禍・豪雨災害：自然災害に向き合う」の開催について	科学者委員会委員長	B(13-14)	主催：日本学術会議中部地区会議 日時；令和2年11月20日（金）13:00～16:00 場所：オンライン開催 **※開催主体が地区会議のため、承認は幹事会のみ**	-	内規別表第1
提案7	日本学術会議中国・四国地区会議主催学術講演会「地域にある大学としての先端学術の振興と地域産業イノベーションへの貢献」	科学者委員会委員長	B(15-16)	主催：日本学術会議中国・四国地区会議 日時；令和2年11月21日（土）13:30～17:10 場所：愛媛大学城北キャンパス グリーンホール ※一般参加者は事前登録制（定員あり）とし、オンラインでも配信 **※開催主体が地区会議のため、承認は幹事会のみ**	-	内規別表第1
提案8	公開シンポジウム「世界戦争１００年と戦後の国際秩序形成」の開催について	経済学委員会	B(17-24)	主催：日本学術会議　地域研究委員会アジアの地域協力と学術的ネットワーク構築分科会、経済学委員会 日　時： 1日目　令和2年12月3日（木）10：20～18：10 2日目　令和2年12月4日（金）10：30～17：40 3日目　令和2年12月8日（火）13：00～17：40 場　所： 1日目(12月3日)青山学院大学総研ビルディング12階17号館国際会議場 2日目(12月4日)日本学術会議　講堂 3日目(12月8日)京都大学　経済研究所 ※新型コロナウイルス感染症の影響によっては、開催形態を変更し、オンラインにより開催する場合がございます。 ※新型コロナウイルス感染症の影響によって3月に開催予定（幹事会承認済み）であった公開シンポジウムを12月に延期、構成等を変更して開催するもの。 **※第一部承認**	-	内規別表第1

提案9	公開シンポジウム「創薬を加速させる革新的な細胞・臓器・個体モデル」の開催について	薬学委員会委員長	B(25-26)	主催：薬学委員会/生物系薬学分科会/化学・物理系薬学分科会/公益社団法人　日本薬学会 後　援：日本生命科学アカデミー、公益財団法人がん研究会 日　時：令和3年1月18日（月）13:00～17:00 場　所：日本薬学会　長井記念ホール なお、状況に応じてリアルタイム配信を併用しての開催に変更する可能性もあり **※第二部承認**	-	内規別表第1
提案10	公開ワークショップ「若手による地域共創の実践とプラットフォーム（仮題）」の開催について	若手アカデミー代表	B(27-29)	主催：日本学術会議若手アカデミー、イノベーションに向けた社会連携分科会 日　時：令和3年3月1日（月）13:00-18:00（予定） 場　所：イノチオホール（愛知県豊橋市向草間町字北新切95）（予定） ※新型コロナウイルスの状況によってはオンライン開催に変更	-	内規別表第1
提案11	Global Young Academy総会 (Global Young Academy Annual General Meeting and Conference) 「科学の再生：包括性と持続性に向けた価値の変革のための感性と理性のリバランス」の幹事会承認の取消しについて	若手アカデミー代表	B(31-32)	第284回幹事会(令和元年11月28日)において承認されたGlobal Young Academy総会において、公開シンポジウム等としての開催を取り止めることになったため。	三成副会長	内規別表第1

４．後援

提案12	国内会議の後援をすること	会長	ー	以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 <u>①サイエンスアゴラ2020（年次総会）</u> 主催：国立研究開発法人科学技術振興機構 期間：令和2年11月15日(日)～22日（日） 場所：サイエンスアゴラ2020特設ウェブサイト上にて開催 申請者：国立研究開発法人科学技術振興機構理事長　濵口　道成 **※科学と社会委員会承認**	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ

Ⅱ　その他

提案13	「日本学術会議総会及び部会（第25期第１回）の開催方法について」を幹事会として決定すること	会長	B(33-38)	「日本学術会議総会及び部会（第25期第１回）の開催方法について」について幹事会として決定する必要があるため。	会長	−

２．学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和２年度第３四半期】追加分、【令和２年度第４四半期】

＜概要＞

１．日本学術会議主催学術フォーラム

(1) 経費負担を要するものは、原則として 年間 10 回程度

(2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計３件まで

(3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに２件まで

○今回提案【令和２年度第３四半期】、【令和２年度第４四半期】　　全２件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の人的支援
1	提案３	「人口縮小社会」という未来−持続可能な幸福社会をつくる−	11 月 25 日（水）または 11 月 18 日（水） 13:00～17:00	日本学術会議大会議室（オンライン開催）	要	要
2	提案４	「東日本大震災からの十年とこれから」～58 学会、防災学術連携体の活動～	令和３年１月 14 日（木） 10:00～17:00	東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂	要	不要

（参考）----------

■今回提案を含めた合計数

１．学術フォーラム（平日６件/土日３件）　全９件　　残り：１件

（内訳）※現在の９件中、９件は経費又は人的負担要

		第１四半期（4 月～6 月）	第２四半期（7 月～9 月）	第３四半期（10 月～12 月）	第４四半期（1 月～3 月）
学術フォーラム	（土日）	2	1	0	0
	（平日）	2	1	2	1
合計		4	2	2	1

提案３

日本学術会議主催フォーラム
「「人口縮小社会」という未来−持続可能な幸福社会をつくる−」の開催について
（案）

１．主　催：日本学術会議

２．日　時：令和２年 11 月 25 日（水）（第一希望）、11 月 18 日（水）（第二希望）
　　１３時３０分から１７時まで

３．場　所：日本学術会議大会議室（オンライン開催）

４．分科会等の開催：なし

５．開催趣旨：
　世界はいま、COVID-19 で大きく揺さぶられている。しかし、COVID-19 だけに目を奪われて、それ以前からわれわれに突きつけられていた問題を忘れるわけにはいかない。わが国は世界に先駆けて、人口減少・少子高齢化を基調とした社会へと歴史的転換を経験しつつある。この転換過程は人類にとってこれまでに直面したことのないものであり、わが国社会経済の成り立ちとその持続可能性を根幹から揺るがすものとなる。以下では、この事態の理解の基礎となる人口変化の状況、課題とその認識、方途について概観した上で、今後の方向性と具体策を検討する。それは、COVID-19 への対処にも重要な示唆となるだろう。

６．次　第：（予定、交渉中のものも含む。）
　13：30　趣旨説明
　　遠藤　薫　（日本学術会議第一部会員、学習院大学法学部教授）
　13：50　講演　人口問題の概要
　　金子　隆一（日本学術会議連携会員、明治大学政治経済学部特任教授）
　14：10　講演　人口問題と人の生き方
　　武石　恵美子（日本学術会議連携会員、法政大学キャリアデザイン学部教授）
　14：30　講演　人口問題と医療
　　石原　理（日本学術会議特任連携会員、埼玉医科大学産科婦人科学教授）

　15：00－15：30　（　休憩　）

15：30　パネルディスカッション

（報告者）

大沢　真理（日本学術会議連携会員、東京大学社会科学研究所教授、副学長）

経塚　淳子（日本学術会議第二部会員、東北大学生命科学研究授）

遠藤　求（日本学術会議連携会員、奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究領域教授）

馬奈木俊介（日本学術会議連携会員、九州大学大学院工学研究院教授）

（司会）

渡辺　美代子（日本学術会議第三部会員、副会長、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事）

（コメンテーター）

伊藤　公雄（日本学術会議第一部会員、京都産業大学現代社会学部客員教授）

（下線の講演者は、日本学術会議関係者）

提案４

日本学術会議主催フォーラム
「「東日本大震災からの十年とこれから」～58 学会、防災学術連携体の活動～」
の開催について（案）

１．主　催：日本学術会議、防災学術連携体（５８学会）

２．日　時：令和３年１月 14 日（木）10 時から 17 時まで

３．場　所：東京医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂
（新型コロナウィルス対策として三密を避けるため、座席数 500、換気性能と中継機能の良い会場を確保した。）

４．分科会等の開催：なし

５．開催趣旨：
2011 年東日本大震災の甚大な被害から十年が過ぎる。この期間にも日本の各地で多くの自然災害が発生した。これらの災害について、多くの学会は調査研究、記録、提言、支援などを続けてきた。
大震災後十年を迎えるにあたり、防災学術連携体の各構成学会と防災減災学術連携委員会の委員が、東日本大震災の経験とその後の活動への展開を振り返り、今後の取組について発表する。
防災学術連携体の前身である「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」の三十学会共同声明（2012 年 5 月）を振り返り、今後の防災・減災、学会連携について議論する。

６．次　第：（予定、交渉中のものも含む。）
10:00　開会挨拶　大西　隆（日本学術会議前会長、東京大学名誉教授）
来賓挨拶　内閣府　防災担当　政策統括官
趣旨説明　米田雅子（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学環境・エネルギー研究センター特任教授）

10:20　セッション：東日本大震災後の取組みを中心にした各学会発表
1. 東日本大震災の全容解明と十年間の復旧・復興の総括
2. 原子力発電所事故の復旧・廃炉の現状と放射能汚染の長期的影響
3. 福島被災地域の現状と復興の展望
4. 東日本大震災とその後の自然災害が社会に与えた影響と今後の長期的影響
5. 自然災害軽減と復旧・復興に関わる住民・地域・自治体・政府等への

提言

6. わが国の国土利用計画、都市計画、まちづくり、人づくりと防災・減災対策のあり方
7. 今後の防災・減災分野の研究のあり方、自然科学分野および人文・社会科学分野を含む多様な連携のさらなる推進
8. その他

発表者は、防災学術連携体を構成する５８の学会と防災減災学術連携委員会、土木工学・建築学委員会から、１学会１発表の枠で公募中である。９月末までの応募をもとに、１０月中旬に発表者と発表タイトルを決定する。発表候補には、土木学会、日本建築学会、日本地震学会、日本災害医学会、日本災害看護学会、日本原子力学会、日本自然災害学会、日本地理学会などがある。

16:00　ディスカッション「東日本大震災からの十年とこれから」

17:00　閉会挨拶

大友康裕（日本災害医学会代表理事、東京医科歯科大学教授、防災学術連携体代表幹事）

配布資料：東日本大震災十周年　「防災学術連携体・５８学会の記録」

各構成学会、防災学術連携体、防災減災学術連携委員会から各２頁の寄稿を集めた冊子を配布する

（下線の講演者は、日本学術会議関係者）

提案５

※８月の幹事会において承認済みのシンポジウムについて、発信場所、分科会等の開催を「なし」に変更するもの。

公開シンポジウム
「With コロナの時代に考える人間のちがいと差別　～人類学からの提言～」の
開催について

１．主　催：日本学術会議地域研究委員会、文化人類学分科会、多文化共生分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会

２．後援：日本文化人類学会、日本人類学会

３．日　時：令和２年１０月１１日（日）１４：００～１６：００

４．場　所：オンライン開催（新丸ビル 10 階京都アカデミアフォーラムから発信）
※Youtube での事後公開については検討中

５．分科会等の開催：なし

６．開催趣旨：　新型コロナウィルス（COVID-19）の猛威が収まらない中、私たちはコロナ時代の社会や経済について短期的展望を描くのみならず、人間としてこの時代とどう向き合っていくのか、長期的な視野を持つべきであろう。現在のコロナ禍では、世界中の人々がともに困難に立ち向かい、各所で新しい支え合いが生まれる一方、他者や他集団への不寛容・差別・嫌悪が顕在化している。またこの渦中、アメリカにおける黒人暴行死をきっかけに世界中に広まったブラック・ライブズ・マター運動は、私たちに人種差別が私たち一人一人の問題であることを再認識させた。そこで今こそ、この古くて新しい差別の問題を問い直したい。軋轢は平和に役立たないことをわかっていながら、私たちはなぜそうした感情に陥るのだろうか？はたして差別は永遠になくならないのだろうか？
　本シンポジウムでは、文理両サイドの人類学者が集い、コロナ禍で噴出してきた人間のちがいと差別をめぐる問題について考える。前半は４名の研究者が話題提供し、後半では４名のパネリストに話題提供者を交えて議論を行う。人類学は、人類の進化と人々が織りなす文化について、空間的多様性や時代的変遷も考慮しながら、人間の本質を捉えようとする学問である。政治的・国家的立場を越えた、人間として共有すべき価値観とは何か、差別解消に一歩でも近づく糸口はあるのか、このシンポジウムでともに探りたい。

７．次　第：
14:00 開会あいさつ・問題提起：山極壽一（日本学術会議会長、京都大学総長）

14:10 講演
司会：窪田幸子（日本学術会議第一部会員、神戸大学大学院国際文化学研究科教授）
※以下、演題は仮
１．感染症と人類の歴史 –ゲノム研究の視点から

徳永勝士（日本学術会議連携会員、国立国際医療研究センター）

２．濃厚接触者・クラスター・マスク：人類学からみた公衆衛生的介入の日常実践
増田研（長崎大多文化社会学部准教授）

３．コロナ禍とブラック・ライブズ・マター運動から考える差別と反差別
竹沢泰子（日本学術会議連携会員、京都大学人文科学研究所教授）

４．差別をどう乗り越えるのか –自然人類学からの視点
海部陽介（日本学術会議特任連携会員、東京大学総合研究博物館教授）

15:10 討論

司会：高倉浩樹（日本学術会議第一部会員、東北大学東北アジア研究センター教授）

パネリスト：斎藤成也（日本学術会議連携会員、国立遺伝学研究所教授）
中谷文美（日本学術会議連携会員、岡山大学大学院教授）
松田素二（日本学術会議連携会員、京都大学大学院文学研究科教授）
山極壽一（同上）
話題提供者４名

16:00 閉会

８．関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案６

日本学術会議中部地区会議学術講演会
「コロナ禍・豪雨災害：自然災害に向き合う」の開催について

１．主　催：日本学術会議中部地区会議、国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学

２．日　時：令和2年11月20日（金）13：00～16：00

３．場　所：オンライン開催（Zoomウェビナー）

４．開催趣旨：
　新型コロナウイルスの流行は、私たちの生活を一変させました。この新型ウイルスの起源については議論があるものの、自然界の生態系から人類に入ってきたウイルスであることは間違いありません。その意味からは、豪雨と同じ自然現象であり、コロナ禍も自然災害の一つと捉えることができます。一方、コロナ禍が続くなか、岐阜県含め各地では、深刻な豪雨災害が起き、これまでとは異なる対応が求められています。このように複雑化した自然災害とどう向き合うかは身近で喫緊のテーマと考えることができます。そこで、本講演会では、こうした自然災害との向き合い方について、コロナ禍や豪雨災害を例に、自然科学、社会科学、行動科学の観点から考えてみたいと思います。

５．次　第：
（１）13:00～13:10　開会挨拶
　　森脇　久隆（岐阜大学長）

（２）13:10～13:20　日本学術会議挨拶
　　日本学術会議会長又は副会長

（３）13:20～13:30　主催者挨拶
　　池田　素子（日本学術会議第二部会員・中部地区会議運営協議会委員、名古屋大学大学院生命農学研究科・教授）

（４）13:30～13:40　科学者との懇談会活動報告
　　松田　正久（中部地区科学者懇談会幹事長）

（５）13:40～15:55　学術講演会『コロナ禍・豪雨災害：自然災害に向き合う』
　　・講演「コロナ禍：感染症と自然災害」
　　杉山　誠（日本学術会議連携会員、岐阜大学・副学長）

　　・講演「コロナ禍：防災減災と被災」
　　小山　真紀（岐阜大学・流域圏科学研究センター・准教授）

　　・講演「コロナ禍：親密圏における暴力（ＤＶ・児童虐待など）」
　　立石　直子（日本学術会議連携会員、岐阜大学・地域科学部・准教授

（６）15:55～16:00　閉会挨拶（司会）
　　永田　知里（日本学術会議連携会員、岐阜大学・医学系研究科・教授）

※下線の講演者等は、主催地区会議の会員・連携会員

６．備考

本学術講演会の開催は第 25 期となるが、開催準備等のため、第 24 期中に幹事会の承認を求めるもの。中部地区会議構成員から、池田素子氏（第 24－25 期）が主催者挨拶を、杉山誠氏（第 24－25 期）及び立石直子氏（第 24－25 期）が講演を、永田知里氏（第 24－25 期）が司会を務めることで、第 25 期の会員・連携会員の 2 名以上が参加する体制の確保を見込んでいる。

また、新型コロナウイルス感染症の状況次第では、延期、中止又は開催方法の変更等の措置を検討するものとする。

７．関係部の承認の有無：科学者委員会

提案７

日本学術会議中国・四国地区会議主催学術講演会
「地域にある大学としての先端学術の振興と地域産業イノベーションへの貢献」の開催について

１．主　催：日本学術会議中国・四国地区会議、国立大学法人愛媛大学

２．後　援：未定

３．日　時：令和2年11月21日（土）13:30～17:10

４．場　所：愛媛大学城北キャンパス　グリーンホール（松山市文教町３）
※一般参加者は事前登録制（定員あり）とし、オンラインでも配信する。

５．開催趣旨：
全国の８６国立大学の中で、主に地方にある５５大学は、文部科学省の重点支援枠①（主として、人材育成や地域課題を解決する取組などを通じて地域に貢献する取組とともに、・・・）を選択し、「地域貢献型」の大学としてさまざまな取組を行っている。しかし、地方大学にも、世界的な先端研究を展開している研究グループは存在し、それらのグループの「キラリと光る」世界的成果は、大学の本来の姿として不可欠なものである。
本講演会では、地方大学の一つとしての愛媛大学が、「先端研究」と「地域創生に繋がる応用研究」をどのように展開しているかを共有したい。また、今後の大学運営との関係で、これらの方向性が異なる研究をどのように発展させていくべきなのか、考えたい。

６．次　第：
（１）開会挨拶
13：30～13：50
日本学術会議会長又は副会長（予定）
第25期中国・四国地区会議運営協議会代表幹事
大橋　祐一（愛媛大学長）

（２）講演
13：50～14：15　「愛媛大学における先端学術研究の展開とリサーチユニット（仮）」
宇野 英満（愛媛大学理事・副学長（先端研究・学術推進機構長））

14：15～14：50　「愛媛発イノベーションによるマラリアワクチン開発への貢献（仮）」
坪井 敬文（愛媛大学プロテオサイエンスセンター長）

14：50～15：10　「地域にある大学による「地方創生」への貢献（仮）」
仁科 弘重（日本学術会議第二部会員、愛媛大学理事・副学長（社会連携推進機構長））

15：10～15：25　休憩

15：25～15：55　「スマの育種完全養殖が切り拓く未来（仮）」
後藤 理恵（愛媛大学南予水産研究センター准教授）

15：55～16：25　「医療検査・診断用ペーパーデバイスの開発（仮）」
内村 浩美（愛媛大学紙産業イノベーションセンター長）

16：25～16：55　「高精度生体情報計測が可能にするSociety5.0の農業生産（仮）」
高山 弘太郎（日本学術会議連携会員、愛媛大学大学院農学研究科植物工場システム学コース教授）

（3）閉会挨拶
16：55～17：00
仁科 弘重（再掲）

7．関係部の承認の有無：科学者委員会

※下線の登壇者は、主催地区会議の会員・連携会員

※本学術講演会の開催は第25期となるが、開催準備等のため、第24期中に幹事会の承認を求めるもの。中国・四国地区会議の構成員から、次期運営協議会代表幹事が開催挨拶、第二部会員（第24－25期）の仁科 弘重氏が講演を行うことで、来期に中国・四国地区に所属する会員・連携会員の２名以上が参加する体制の確保を見込んでいる。（次期運営協議会代表幹事を当該地区に所属する会員・連携会員の数に含めることは、前例あり（第23期北海道地区学術講演会））
※また、新型コロナウイルス感染症の状況次第では、延期、中止又は開催方法の変更等の措置を検討するものとする。

提案８

※新型コロナウイルス感染症の影響によって３月に開催予定（幹事会承認済み）であった公開シンポジウムを１２月に延期、構成等を変更して開催するもの。

公開シンポジウム「世界戦争１００年と戦後の国際秩序形成」の開催について

１．主　催：日本学術会議　地域研究委員会　アジアの地域協力と学術的ネットワーク構築分科会、経済学委員会

２．共　催：青山学院大学（EU エラスムスムンドゥス、学術振興会 2 国間協力）
京都大学経済研究所、CHIR(世界国際関係史学会)

３．後　援：(新聞社など)(未定)

４．日　時：　１日目　令和２年１２月３日（木）１０：２０～１８：１０
２日目　令和２年１２月４日（金）１０：３０～１７：４０
３日目　令和２年１２月８日（火）１３：００～１７：４０

５．場　所：　１日目(１２月３日)青山学院大学　総研ビルディング１２階１７号館国際会議場
２日目(１２月４日)日本学術会議　講堂
３日目(１２月８日)京都大学　経済研究所
※新型コロナウイルス感染症の影響によっては、開催形態を変更し、オンラインにより開催する場合がございます。

６．分科会等の開催：なし

７．開催趣旨：

現在、世界はコロナ危機の中で大きな転換期を迎えている。20 世紀は世界大戦の世紀であった。 2 つの世界大戦が勃発し、冷戦は 2 つの世界大戦の後に、世界を二極化し、再び分断した。

戦後の荒廃の中、石炭鉄鋼共同体、欧州共同体（ECSC, EC)がヨーロッパで形成された。ヨーロッパは、経済協力、制度構築、法の支配を確立することにより、戦後平和的なガバナンスを実現した。他方アジアでは、第二次世界大戦後、東南アジアでは ASEAN が地域統合を追求し実現したが、ほかの地域は緊張関係が抜けないまま現代にいたっている。現代世界には新しいナショナリズムが勃興し、ヨーロッパではポピュリズムアメリカでは自国(利益)第 1 主義が広がっている。新興国、特に中国とインドでは急速な経済成長の波がある。民主化を求める不安定な動きと局地戦争の可能性は、中東、東アジア、中央アジア、南アジアなどで同時に広がっている。

本国際会議では、20 世紀の 3 つの戦争（第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦）を踏まえ、終わりなき戦争と紛争を回避するため、どのような地域制度化と地域統合の構築が必要なのかを検討する。地域紛争を安定化させるために、欧州・アジアではど

のような秩序が必要なのか。2019 年 12 月のアジアの対立と共同に引き続き、2020 年 12 月の公開シンポでは、世界大戦を経験した国々が各国・各時代で地域の共存をどのように再編したか。またそれを踏まえ、新しい時代の世界秩序の在り方をどうするのか。新たなアジアの時代を見据えて「新世界秩序」を構想する。

制度、民主主義、法の再編により、平和・安定・繁栄を確立するために、我々は今、何をなすべきか。世界の転換期に、東京会議・京都会議の開催を通じて、20 世紀の戦争 100 年を踏まえ、「戦後」の地域協力とガバナンスに基づく「新国際秩序」のあり方について検討する。

８．次　第：

１日目　１２月３日(木曜日)青山学院大学

１０時２０分より
Key Note Speech　Who constructs New World Orders?
キーノートスピーチ「だれが新世界秩序を作るのか」
１．国連：デイヴィド・マローン(国連大学学長)
「　国際組織のより広範なシステムにおける国連の役割
UNU　David Malone (President of United Nation University)
The UN's Role within the wider system of International Organizations“
２．アメリカ：グレン・フクシマ
「新グローバル秩序におけるアメリカの役割」
The USA　Glen S. Fukushima
America’s Role in the New Global Order

第１セッション：第１次大戦後及び戦間期の世界秩序変容（司会:石田憲）
I. After World War I and Interwar period（12:50-14:20）
Chair:　Ken Ishida（Professor of Chiba University）
ドミトリウ・プレダ（キューバ大使、CHIR 理事、ルーマニア）
「１919-1920、第１次世界大戦後の地政学：ルーマニアの視点から」
Dumitru Preda (Ambassador, and Professor, Board Member and Treasurer CHIR, Romania)
“Evolutions and Challenges on the World Geo-political Map in the last Century 1920-2020. A Romanian point of view”
Valdo Ferretti(Professor, University of Rome, Italy)X
“Disarmament and equilibrium　between two world wars (1919-1939)”
クラウディウ・ルチアン・トポル（アレクサンドル・クーザ大学教授、ヤシ、ルーマニア）

「戦間期における南東ヨーロッパの安全保障：近隣国との抗争と地域連合のはざまとしての「大ルーマニア」」
CLAUDIU-LUCIAN　TOPOR(Professor, ALEXANDRU IOAN CUZA" UNIVERSITY,　IAȘI, Romania)
"The security of South-East Europe in the first inter-war decade. "Greater Romania" between conflicting neighborhoods and regional alliances"
飯森明子（早稲田大学アジア太平洋研究センター、特別センター員）
「渋沢栄一の日本国際連盟協会を通した国際社会への支援」
Akiko Iimori(Research Fellow, Waseda University, Tokyo)
"Shibusawa Eiichi's Support for the International Society through the League of Nations Association of Japan"
Discussion(30 minutes)

１４：２０－１５：５０
第２セッション：地域共同とグッド・ガバナンス（司会：臼井陽一郎）
II.Regional Collaboration in Europe and Asia(14:20-15:50)
Chair, Yoichiro Usui (Niigata University of International and Information Studies)
首藤もと子（筑波大学名誉教授）
「労働移民に関する ASEAN のガバナンス：国際化の進展と挑戦」
Motoko Shuto　(Emeritus Professor, Tsukuba University, Tokyo)
"ASEAN's　Governance of Labor Migration: Progress of Institutionalization and Challenges"
ソアヴァパ・ガムプラムアン（ラムカンハエン大学准教授、タイ）
「ドナウ流域のヨーロッパ戦略と大メコン川下位地域に見る、下位地域協力の比較」
Soavapa NGAMPRAMUAN(Associate Professor of Ramkhamhaeng University. Thailand)
Comparative sub-regional development between the European Strategy for the Danube Region (EUSDR) and the Greater Mekong Sub-region (GMS).
アカンクシャ・シン（ハワハラル・ネルー大学、博士、インド）
「新世界秩序における地域共同の要求：エネルギー安全保障に焦点を当てた、EU の独仏協力のケーススタディ」
Akanksha Singh (PhD, Hawaharlal Nehru University, India)
Demand of Regional Cooperation in New World Order: Case Study of France and Germany towards EU Formation focusing on Energy Security
杜世鑫（青山学院大学、博士、中国）
「中国の一帯一路政策と東欧との関係：新しいタイプの国際関係はどこまで可能か」
Shixin DU (PhD, Aoyama Gakuin University, China)
The Belt and Road Initiative and China-Eastern European Relations -How Far the

`New Type of International Relations` can achieve-
Discussion(30minutes)

第３セッション：ヨーロッパ・アジアと、ポスト植民地化（司会:半澤朝彦）
Coffee Break(15:50-1７:10)
III.　Post Colonialization in Europe and Asia (16:10-17:40)
Chair, Asahiko Hanzawa (Professor, Meiji Gakuin University, Tokyo)
Alfredo Canavero (Professor, University of Milan, Secretary General of CHIR, Italy)
“A Pattern of Collaboration: European Integration and Decolonization. From the beginning to Yaoundé Treaty”
ジュリア・ラミー（ミラノ大学、CHIR,イタリア）
「ヨーロッパ統合と脱植民地化：共同のパターン：ヤウンデ協定から現在まで」
Giulia Lami(Professor, University of Milan, CHIR, Italy)
“A Pattern of Collaboration: European Integration and Decolonization. From Yaoundé Treaty to Present Days”
黒田智也（専修大学、准教授）
「フランス：脱植民地化と、グローバルサウス」
Tomoya Kuroda (Associate Professor, Senshu University, Tokyo)
France, De-Colonization and Global South
宮本悟（聖学院大学、教授）
「北朝鮮とアジア・アフリカの戦争」
Satoru Miyamoto (Professor, Seigakuin University, Tokyo)
"North Korea and Wars in Africa and Asia"
Discussion(30 minutes)
総合討論　（１７：１０－１８：００）
閉会の辞　（１８：００－１８：１０）第１セッション：第１次大戦後及び戦間期の

２日目　１２月４日（金曜日）日本学術会議講堂
１０：３０挨拶
溝端佐登史(日本学術会議第一部会員、京都大学経済研究所教授)
１０：４０ 開催趣旨
羽場久美子（日本学術会議連携会員、青山学院大学国際政治経済学部教授）
Key Note Speech
１．イギリス：木畑洋一(東京大学名誉教授、成蹊大学名誉教授)
「帝国イメージの後に？―Brexit の背景」
The UK　Professor Kibata, Yoichi　（Emeritus Professor of Tokyo University）

After image of thee Empire? ———A Background of Brexit.

２．中国：杜進(華人教授会元理事長)

「一帯一路戦略と、中国の世界戦略」

China　Professor Xin Du(　Chinese Professors Association)、Past President

Belt and Road Initiatives and Chinese World Strategy

12:00-12:10　　Photography 写真撮影

12:10-13:００　Lunch　　昼食

13:00-14:30

I.「いかなる新世界秩序とガバナンスを作るのか？―経済面から」

How to make a New World Order and Good Governance？: Economics

司会　　経済学委員会より　北村行伸（日本学術会議第一部会員、一橋大学経済研究所教授）

Steven Rosefielde（ノースカロライナ大学経済学部教授、アメリカ）

「より良い EU のための新しい原則」」

Steven Rosefielde (Professor of North Caroline University, USA)

New Principles for a Better EU

ブルノ・ダラゴー（トリノ大学経済学部教授、イタリア）」

「ハンガリー、ポーランドの収斂経済の望ましくない結果」

Bruno Dallago (Professor of Trento University, Italy)

Unwanted consequences: convergence swings in Hungary and Poland

オルガ・ボブロヴァ(サンクト・ペテルブルグ国立経済大学教授、ロシア)

「新国際経済秩序への専門職協会の貢献–ロシアの事例」

Bobrova, Olga (Professor of University of St. Petersburg State Economic University)

Professional Associations' Contribution into a New World Order Formation: Case of Russia

Discussion (30 分)

14:30－15：00　（Coffee Break）

15：00―16:30

II.「いかなる新世界秩序とガバナンスを作るのか？ー政治面から」

How to make　New World Order and Good Governance?:Politics

司会　我部政明（日本学術会議連携会員、琉球大学法学部教授）

羽場久美子(日本学術会議連携会員、青山学院大学国際政治経済学部教授)

「戦後ヨーロッパとアジアにおけるアメリカの「新国際秩序」戦略の違い」

Kumiko Haba(Professor of Aoyama Gakuin University、SIPEC)
"The US Different Strategy of “New World Order "　toward Europe and Asia in Postwar Period "
パトリック・ボイド（青山学院大学准教授）
「トランプ時代のアメリカのナショナリズムとグランド・ストラテジー」
J. Patrick Boyd (Associate Professor, Aoyama Gakuin University, USA)
“‘I’m a Nationalist’: American Nationalism and Grand Strategy in the Age of Trump”
クリス・ポップ（京都女子大学教授、京都）
「グローバルシステムは崩壊し、不況による和解が実現するのか？」
Chris G. Pope(Kyoto Women's University、Kyoto)
Global System Collapse and a New Post-Recession Settlement?
パルディープ・シン・チャウハン（クルクシェトラ大学准教授）
「南アジア地域連合(SAARC)と BIMSTEC は世界をリードするか一南アジアの地域共同」
Pardeep Singh Chauhan(Associate Professor, Kurukshetra University、India)
Do SAARC and BIMSTEC lead the World?　---Regional Collaboration in South Asia
Discussion　(30 分)

16:30-17:30　総合討論
総合司会:小川有美（日本学術会議連携会員、立教大学法学部教授）

１７：30　閉会挨拶　（検討中）

１7：40　閉会

３日目　１２月８日（火曜日）京都大学経済研究所

13:00-14:30
I.「いかなる新世界秩序とガバナンスを作るのか？―経済面から」
How to make a New World Order and Good Governance？: Economics
司会　　経済学委員会より　北村行伸（日本学術会議第一部会員、一橋大学経済研究所教授）
Steven Rosefielde（ノースカロライナ大学経済学部教授、アメリカ）
　　「より良い EU のための新しい原則」」
Steven Rosefielde (Professor of North Caroline University, USA)

New Principles for a Better EU
ブルノ・ダラゴー（トリノ大学経済学部教授、イタリア）」
「ハンガリー、ポーランドの収斂経済の望ましくない結果」
Bruno Dallago (Professor of Trento University, Italy)
Unwanted consequences: convergence swings in Hungary and Poland
オルガ・ボブロヴァ(サンクト・ペテルブルグ国立経済大学教授、ロシア)
「新国際経済秩序への専門職協会の貢献–ロシアの事例」
Bobrova, Olga (Professor of University of St. Petersburg State Economic University)
Professional Associations' Contribution into a New World Order Formation: Case of Russia
Discussion (30 分)

14:30－15：00　（Coffee Break）

15：00—16:30
II.「いかなる新世界秩序とガバナンスを作るのか？ー政治面から」
How to make　New World Order and Good Governance?:Politics
司会　我部政明（日本学術会議連携会員、琉球大学法学部教授）
羽場久美子(日本学術会議連携会員、青山学院大学国際政治経済学部教授)
「戦後ヨーロッパとアジアにおけるアメリカの「新国際秩序」戦略の違い」
Kumiko Haba(Professor of Aoyama Gakuin University、SIPEC)
"The US Different Strategy of "New World Order "　toward Europe and Asia in Postwar Period "
パトリック・ボイド（青山学院大学准教授）
「トランプ時代のアメリカのナショナリズムとグランド・ストラテジー」
J. Patrick Boyd (Associate Professor, Aoyama Gakuin University, USA)
" 'I'm a Nationalist': American Nationalism and Grand Strategy in the Age of Trump"
クリス・ポップ（京都女子大学教授、京都）
「グローバルシステムは崩壊し、不況による和解が実現するのか？」
Chris G. Pope(Kyoto Women's University、Kyoto)
Global System Collapse and a New Post-Recession Settlement?
パルディープ・シン・チャウハン（クルクシェトラ大学准教授）
「南アジア地域連合(SAARC)と BIMSTEC は世界をリードするかー南アジアの地域共同」
Pardeep Singh Chauhan(Associate Professor, Kurukshetra University、India)
Do SAARC and BIMSTEC lead the World?　---Regional Collaboration in South

Asia
Discussion　（30 分）

16:30-17:30　総合討論
総合司会: 溝端佐登史（日本学術会議第一部会員、京都大学経済研究所教授）

１７：30　閉会挨拶　（検討中）

１７：40　閉会

９．関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案９

公開シンポジウム「創薬を加速させる革新的な細胞・臓器・個体モデル」の開催について

１．主　催：薬学委員会、生物系薬学分科会、化学・物理系薬学分科会、
　　公益社団法人　日本薬学会

２．後　援：日本生命科学アカデミー、公益財団法人がん研究会

３．日　時：令和３年１月１８日（月）13:00～17:00

４．場　所：　日本薬学会　長井記念ホール
　なお、状況に応じてリアルタイム配信を併用しての開催に変更する可能性もあり

５．分科会等の開催：なし

６．開催趣旨：再生医療などにも関わる組織・臓器を人工的に作り出す技術の進展により、薬剤スクリーニングにも応用可能な革新的なモデル系が次々に開発されてきています。ヒト個体や臓器を模したこれらアッセイ系は、創薬過程における対象疾患の選定や有効性・安全性の検証へと応用されることで、新薬の開発コスト削減や開発期間圧縮に大きな貢献を果たしており、特に、創薬過程において問題となっている臨床開発後期段階でのドロップアウト率を減らすものと期待されています。そこで本シンポジウムでは、従来の創薬を根本的に変える可能性のある革新的な細胞・臓器・個体モデルについて、その有用性や将来展望について情報提供したいと考えています。

７．次　第：

１）　開会挨拶　　土井 健史（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院薬学研究科教授）
　　嶋田 一夫（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授　理化学研究所、生命機能科学研究センター）
　　遠藤 玉夫（日本学術会議会員、日本学術会議第二部会、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター シニアフェロー）
　　高倉 喜信（日本薬学会 会頭、京都大学大学院薬学研究科　教授）

２）　亀井 謙一郎（京都大学 高等研究院 物質－細胞統合システム拠点　准教授）
　「Organ/Body on a Chip を用いた病態モデル開発」

３）　松永 行子（東京大学 生産技術研究所 機械・生体系部門　准教授）
　「微小血管の Organ on a chip によるフェノタイプ解析と治療標的探索」

４） 筆宝 義隆（千葉県がんセンター研究所 発がん制御研究部　部長）
「マウスおよび患者由来のがんオルガノイドモデル確立と創薬への応用」

５） 片山 量平（公益財団法人がん研究会 がん化学療法センター 基礎研究部　部長）
「再発がん患者検体と初代培養がん細胞を用いた薬剤耐性機構と耐性克服法の探索」

６） 齋藤 潤（京都大学 iPS 細胞研究所 疾患再現研究分野　准教授）
「疾患特異的 iPS 細胞を用いた難治性疾患の病態解析と治療法開発」

７） 諫田 泰成（国立医薬品食品衛生研究所 薬理部　部長）
「ヒト iPS 細胞技術を活用した新たな薬理試験法の開発」

８） 閉会挨拶　　長野 哲雄（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、東京大学創薬機構　客員教授）

８．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

提案１０

公開ワークショップ「若手による地域共創の実践とプラットフォーム（仮題）」の開催について

１．主　催：日本学術会議若手アカデミー、イノベーションに向けた社会連携分科会

２．共　催：豊橋まちなか会議（予定）

３．後　援：無し（予定）

４．日　時：令和３年３月１日（月）13:00-18:00（予定）

５．場　所：イノチオホール（愛知県豊橋市向草間町字北新切 95）（予定）
※新型コロナウイルスの状況によってはオンライン開催に変更

６．分科会等の開催：開催予定

７．開催趣旨：
社会経済状況の変化や巨大災害・パンデミックなどのリスクを背景に地域の課題が多様化・輻輳化する中で、多様な主体が対話を通じて地域を共創していくことが求められている。企業の資金力や技術力、大学の先端の知や創造的志向、行政がもつ公共公益的視点や公共財源、市民の声など、それぞれの強みを生かし足りないものを補いながら、地域に寄り添い、地域の価値を創造し、地域の未来を描き続けていくことが肝要である。本ワークショップでは、愛知・豊橋の新しい時代を担う多様な立場の若手の実践と将来構想の取り組みを通じて、多様な主体による地域共創の展望を議論したい。

８．次　第（予定）：

13:00 開会挨拶
岸村　顕広（日本学術会議連携会員、若手アカデミー代表）（予定）

13:10 趣旨説明
小野　悠（日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、豊橋技術科学大学大学院工学研究科講師）

13:20 挨拶
調整中

13:30-14:00 基調講演
大西　隆（東京大学名誉教授）（予定）

14:00-15:00 講演：地域社会と科学技術の関係を考える
埴淵　知哉（日本学術会議特任連携会員、若手アカデミー会員、東北大学環境科学研究科准教授）＜人文地理＞（予定）
「科学はどこでもできるのか？―地域と学術研究のより良い関係に向けて」

田中　和哉（日本学術会議特任連携会員、若手アカデミー会員、政策研究大学院大学政策研究院リサーチ・フェロー）＜人工知能＞（予定）
「国際・スタートアップの観点から考える科学技術と地域のあり方、その中での若手研究者の役割」

15:00-15:10 休憩

15:10-16:40 話題提供：若手による地域共創の実践－豊橋の多様な主体の取り組みから
駒木　伸比古（愛知大学地域政策学部教授）（予定）
「地域特性を活かしたまちづくり」
大村　廉（豊橋技術科学大学准教授）（予定）
「情報技術の発展は地域をどう変えるか」
山田　晋平（元愛知大学文学部メディア芸術専攻准教授）（予定）
「アートで地域を耕す」
○○ ○○（豊橋創造大学女性研究者）（予定）
「健康な街をつくる」
○○ ○○（イノチオ女性研究者）（予定）
「花を咲かせるまち」
○○ ○○（武蔵精密工業）（予定）
「ステージのあるオープンイノベーションの場」or「自動運転がつくる新しい暮らし」
吉開　仁紀（豊橋市市役所職員、道の駅とよはしの副駅長）（予定）
「農業で地域活性」
小原　泰明（西光寺副住職）（予定）
「お寺からみる豊橋の過去・現在・未来」
長坂　なおと（豊橋市議会議員）（予定）
「地域社会における政治家の役割とは」

16:40-16:50 休憩

16:50-17:50 パネルディスカッション：豊橋の将来像を構想する－「豊橋まちなか会議」×「豊橋フードバレー構想」
パネリスト：
神野　吾郎（豊橋商工会議所会頭）
寺嶋　一彦（豊橋技術科学大学長）
髙山　弘太郎（日本学術会議連携会員、豊橋技術科学大学エレクトロニクス先端融合研究所教授・愛媛大学農学研究科教授）
小川　直哉（豊橋駅前大通二丁目地区市街地再開発組合事務局）（予定）
コーディネーター：小野　悠

17:50 閉会挨拶
調整中（日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、イノベーションに向けた社会連携分科会委員長）（予定）

司会進行：小野　悠

（下線の登壇者は、若手アカデミー会員）

提案１１

令和元年１１月２８日第２８４回幹事会承認済みの下記案件について、以下の理由により承認を取消すこととしたいため、この度幹事会にお諮りいたします。

【幹事会承認の取消しを求める理由】

本件に関して、若手アカデミーにGYA総会国内組織分科会を立ち上げ、内容及び運営について、メンバーと議論を続けております。一方、コロナ禍において当初予定していた2021年5月の対面開催は難しいと判断し、開催方法および時期をGlobal Young Academy側と協議して参りました。結果、この度日本での総会開催を2022年度に延期するという結論に至りました。これを受け、開催形式や内容について改めて検討を進める中で、公開シンポジウムとしては開催しないことになりましたので、この度幹事会承認の取り消しをお願いいたします。

記

Global Young Academy 総会
(Global Young Academy Annual General Meeting and Conference)
「科学の再生：包括性と持続性に向けた価値の変革のための感性と理性のリバランス」
の開催について

１．主　催：日本学術会議若手アカデミー、Global Young Academy

２．共　催：日本学術協力財団（予定）

３．後　援：政策研究大学院大学、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)及び関連分野の学会（未定）

４．日　時：令和３年５月16日（日）～21日（金）

５．場　所：日本学術会議会議室及び政策研究大学院大学（仮）
※ワークショップを日本学術会議会議室、開会式閉会式を政策研究大学院大学で開催検討中。

６．分科会等の開催：検討中

７．開催趣旨：
科学の発展によってもたらされる技術が社会の発展に貢献することが明らかになって以来、より社会応用力の高い研究の促進、政策提言や社会へのアウトリーチ活動など、「社会に貢献する科学」のための多彩な役割が科学者に求められるに至っている。現象

解明のためのプロジェクトの大型化や科学の職業化等に伴い、科学的探究のためのリソースの多くを社会に頼ることとなった。

このような 20 世紀の科学の歴史を踏まえ、本会議では科学の移行期にいる若手科学者が世界中から集結し、21.5 世紀の科学者が追求するものは何かを問う。問いは、科学者は何を追求すべきかという観念的な視点からではなく、パトロンである社会との関係性、シチズンサイエンスの台頭に表れている科学のプレイヤーの今日的変化といった文脈から問われる。また、（合）理性という観点からは科学的対象から排除され、一方で人間社会を豊かにしてきた経験、感性、情緒といったものに対して、科学はどのように折り合いをつけるのかを、日本発の「ポスト SDG’s 時代の科学的ビジョン」として議論する。

８．次　第：(検討中)

５月１６日（日）

【オープニング】

・主催者及び来賓の挨拶

・「日本学術会議若手アカデミーの紹介（仮)」

岸村　顕広（日本学術会議連携会員、若手アカデミー代表、九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科学センター准教授

新福　洋子（日本学術会議特任連携会員、若手アカデミー副代表、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻家族看護学講座准教授）

岩崎　渉（日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事、東京大学大学院理学系研究科准教授）

５月 17 日（月）～20 日

【講演会及びワークショップ】

５月 21 日（金）

【クロージング】

参加者：(見込み)

・日本学術会議若手アカデミー会員

・Global Young Academy 会員

・若手研究者に参加を呼び掛ける

※（備考）来期における体制の確保について：

今期若手アカデミー会員で、かつ 24-25 期連携会員である岸村　顕広、岩崎　渉、高瀬堅吉、竹村　仁美、西嶋　一欽、中西　和嘉、安田　仁奈をメンバーに含む国内組織委員会を設置して、来期においても切れ目なく準備を進めるための体制を整えています。

提案１３

次回総会について

日本学術会議第 181 回総会及び部会（第 25 期第１回）の開催方法について（案）

（令和２年９月２４日　日本学術会議第２９９回幹事会決定）

新型コロナウイルス感染症への感染のおそれがある状況において、日本学術会議第 181 回総会及び部会（第 25 期第１回）を開催するため、その開催方法を以下のとおり定める。

１．日本学術会議庁舎内での分散開催

会員は、日本学術会議庁舎内の講堂及び複数の会議室に分散して入室することとし、日本学術会議法（昭和 23 年法律第 121 号）第 24 条第１項に規定する出席があるものとして扱うこととし、同条第２項に規定する出席会員として扱うこととする（同条第３項が準用する場合も同じ）。

２．オンライン参加者を定足数に含める条件

（１）日本学術会議庁舎において出席する会員数が定足数に満たない場合に限って、オンラインにより参加する会員についても、同条第１項に規定する出席があるものとして扱うこととし、同条第２項に規定する出席会員として扱うこととする（同条第３項が準用する場合も同じ）。

（２）オンライン参加者を定足数に含める場合には、投票に関して、「議場封鎖」に近い形をオンライン上で再現することとする。

附則

１．この決定は、決定の日から施行する。

２．２．においてオンライン会議により参加する会員が、オンライン会議の機能により会長の互選を行う場合には、日本学術会議細則（平成 17 年日本学術会議第 146 回総会決定）及び会長の互選に関する幹事会決定（平成 18 年日本学術会議第 12 回幹事会決定）の規定に準じて行うこととする。

３．この決定は、日本学術会議第 181 回総会において承認を求めることとし、承認が得られなかった場合は、その効力を失う。

以上

付記

執行部では、別案（対面参加者だけで総会が成立する場合にもオンライン出席者を定足数に含める案）も検討いたしましたが、採用いたしませんでした。法学委員会の複数の専門家からいただいたご意見をふまえ、執行部で慎重に検討した結果です。ご参考までに、法学的見地からの専門的ご意見をご紹介しておきます。

参考資料

（1）日本学術会議（日本学術会議法 1 条）

〇日本学術会議は、重要な国家行政組織であり、公共的な存在である。

〇日本学術会議の法的根拠は、日本学術会議法にあり、あくまで同法にしたがって運営すべきである。

（2）日本学術会議総会（日本学術会議法 24 条）

〇総会について定める日本学術会議法に、学術会議の民主的正当性の根拠がある。

〇総会は、日本学術会議の最高意思決定機関であり、「対面開催」が原則である。

〇学術会議法 24 条に定める「出席」は、「対面開催」を前提としている（国会の考え方と同様である）。

〇日本学術会議庁舎内の分散開催における参加者も「出席会員」に含むことができる。

（3）総会における議決（細則 4 条）

〇細則 4 条に定めるとおり、総会での議決は「挙手」（議長が挙手の多少を認定）あるいは「投票」（名札票を名札箱に投入し、票を投票箱に投入する）によって行わねばならない。

〇上記は「議場」に会員が集まった上で、挙手・投票が行われることを前提にしている。

〇会長選出と他の議題との間に優劣はなく、会長選出のみ特別扱いをすべきではない。

（4）総会における定足数（細則 21 条）

〇細則 21 条は、「定足数から除外する者」（構成員の 4 分の 1 以内＝52 人以内）の条件を定めている。「災害、不測の事故又は健康上の理由で出席できない者」を定足数から除外することはできるが、定足数に含めることは定めていない。

（5）オンライン出席者を定足数に含める条件

〇下記の条件をすべて満たす場合にかぎって、あくまで「緊急避難」としての特例措置として、オンライン出席者を定足数に含めることが可能である。

①「非常事態」であること（国や自治体によって移動制限が発動されている場合等）。

②対面出席者のみでは定足数を満たないこと（その場合には、議長がオンライン出席者を定足数に含めることを宣言する）。

③構成員の同意を得ること（次回総会は期の交代期にあたるため、継続会員の過半数から事前同意を得ていること、ならびに、総会時に対面及びオンラインでの参加者の過半数の同意を得ること）。

④事前に幹事会決定があること。

⑤出席確認・挙手・投票等につき、対面での「議場封鎖」に近い形をオンライン上で再現できること。

○オンライン出席者を定足数に含まない場合でも、対面出席者の過半数の同意を得て、オンライン出席者に発言権（ただし議決権はない）を付与することは可能である。
○日本学術会議の公共的性格に鑑み、本特例措置の発動についてはとくに慎重であることが求められる。

（６）総会・部会等の開催方法の変更
○細則は、日本学術会議法に反しない範囲で、総会において改正可能である。ただし、事前に幹事会等で十分な審議を経た上で総会に改正案を提出し、総会において審議・決定すべきである。

以上

＊＊＊＊＊

根拠法規（※赤字が本件該当箇所）

【日本学術会議法（最終改正：昭和二四年　五月三一日法律第一三三号）】
第一章　設立及び目的
第一条　この法律により日本学術会議を設立し、この法律を日本学術会議法と称する。
２　日本学術会議は、内閣総理大臣の所轄とする。
３　日本学術会議に関する経費は、国庫の負担とする。
第五章 会議
第二十三条 日本学術会議の会議は、総会、部会及び連合部会とする。
２　総会は、日本学術会議の最高議決機関とし、年二回会長がこれを招集する。但し、必要があるときは、臨時にこれを招集することができる。
第二十四条　総会は、会員の二分の一以上の出席がなければ、これを開くことができない。
２　総会の議決は、出席会員の多数決による。
３　部会及び連合部会の会議については、前二項の規定を準用する。

【日本学術会議細則（最終改正：平成３１年　４月２５日日本学術会議第１７８回総会決定）】
第３章 総会
（総会の議決）　第４条　総会の議決の方法は、次のとおりとする。
(1)　議長が採決をする場合は、原則として議案を可とする会員の挙手を求め、挙手の多少を認定して可否の結果を宣告する。
(2)　議長が可否の多少を認定し難いとき又は出席会員から挙手の多少を認定し難いとして異議が唱えられたときは、議長は投票で採決をする。
(3)　投票を行う場合は、出席会員はすべて、名札票を名札箱に投入するとともに、議案を可とする会員は青票を、議案を否とする会員は赤票を、議案の可否を決しない会員は白票を投票箱に投入する。この場合において、議長は投票を行わない。
(4)　会則第１８条第２項に定める可否同数の場合とは、前号の可とする票数の２倍の数が名札票の数と同一のときとする。
第６章 会議　（定足数）
第２１条　法第２４条第３項並びに会則第２６条及び第３１条並びに前条において準用する法第２４条第１項の規定の適用については、海外赴任者（海外に居所を有し、現に海外に在る者）、出張者、災害、不測の事故又は健康上の理由で出席できない者を、構成員の四分の一を上限として除外する。

（別案）

日本学術会議第 181 回総会及び部会（第 25 期第１回）の開催方法について（案）

（令和２年９月２４日　日本学術会議第２９９回幹事会決定）

新型コロナウイルス感染症への感染のおそれがある状況において、日本学術会議第 181 回総会及び部会（第 25 期第１回）を開催するため、その開催方法を以下のとおり定める。

１．日本学術会議庁舎内での分散開催

会員は、日本学術会議庁舎内の講堂及び複数の会議室に分散して入室することとし、日本学術会議法（昭和 23 年法律第 121 号）第 24 条第１項に規定する出席があるものとして扱うこととし、同条第２項に規定する出席会員として扱うこととする（同条第３項が準用する場合も同じ）。

２．オンライン参加者を定足数に含める条件

（１）日本学術会議庁舎において出席する会員数が定足数に満たない場合に限って、オンラインにより参加する会員についても、同条第１項に規定する出席があるものとして扱うこととし、同条第２項に規定する出席会員として扱うこととする（同条第３項が準用する場合も同じ）。

（２）日本学術会議庁舎において出席する会員数が定足数を満たす場合には、オンラインにより参加する会員について、同条第１項に規定する出席があるものとして扱い、同条第２項に規定する出席会員として扱う（同条第３項が準用する場合も同じ）か否かについて、第 25 期第１回総会において決議することとする。

（３）オンライン参加者を定足数に含める場合には、投票に関して、「議場封鎖」に近い形をオンライン上で再現することとする。

３．新型コロナウイルス感染症の感染防止のための特例措置

本決定は、あくまで新型コロナウイルス感染症の感染防止のための特例措置であって、日本学術会議第 181 回総会及び部会（第 25 期第１回）についてのみ妥当することとし、第 182 回総会以降については第 25 期において別途検討することとする。

附則

１．この決定は、決定の日から施行する。

２．２．においてオンライン会議により参加する会員が、オンライン会議の機能により会長の互選を行う場合には、日本学術会議細則（平成 17 年日本学術会議第 146 回総会決定）及び会長の互選に関する幹事会決定（平成 18 年日本学術会議第 12 回幹事会決定）の規定に準じて行うこととする。

３．この決定は、日本学術会議第 181 回総会において承認を求めることとし、承認が得られなかった場合は、その効力を失う。

以上

第１８１回総会日程

－ 第２５期第１回 －

		13:00	16:00
１０月１日（木）		**総会** ・会長互選 ・新会長就任挨拶 ・前会長報告 ・前期年次報告書の報告 ・会員所属部決定 ・事務局説明	

	10:00	10:30	12:00	13:30	16:00	17:00
１０月２日（金）	**総会** ・会長による副会長指名及び就任挨拶	**部会** ・部長互選	昼休み	**部会** ・部長による副部長、幹事指名等 ・連携会員向け説明会の日程検討等	**地区会議** ・代表幹事、運営協議会委員選出	**幹事会①** ・分野別委員会委員の承認等

	10:00	12:00	13:30	15:30	16:30
１０月３日（土）	**各分野別委員会①** ・役員の選出、分科会設置の検討等	昼休み	**各分野別委員会②** ・役員の選出、分科会設置の検討等	**幹事会②** ・日程調整 ・各種委員会、分科会の設置等	

<u>第２　会場</u>

総　　会・・・・・・講堂及び会議室（＋　オンライン）
部　　会・・・・・・会議室　　（＋　オンライン）
幹事会①・・・・・・大会議室　　＋　オンライン
地区会議・・・・・・講堂及び会議室　＋　オンライン
分野別委員会、幹事会②・・・・・・講堂及び会議室　＋　オンライン

	10月1日			10月2日			10月3日			未回答
	出席	欠席	うち、コロナを理由とした欠席	出席	欠席	うち、コロナを理由とした欠席	出席	欠席	うち、コロナを理由とした欠席	
第一部	45	17	3	40	22	3	48	14	3	8
第二部	40	17	4	40	17	4	13	44	4	13
第三部	51	14	2	52	13	2	56	9	2	5
合計	**136**	**48**	**9**	**132**	**52**	**9**	**117**	**67**	**9**	**26**
	（定足数105）			（定足数105）			（定足数105）			

（参考）第24期第1回（平成29年10月）の出席者

1日目：10月2日（月） 出席172名

2日目：10月3日（火） 出席168名